

THE
WAKASAWA
ENERGY
RESEARCH
CENTER

〒914-0192 福井県敦賀市長谷 64 号 52 番地 1

公益財団法人若狭湾エネルギー研究センター

エネ研ニュース Vol.104

<http://www.werc.or.jp/>

平成 29 年 1 月 25 日発行

～新年のご挨拶～



理事長 旭信昭

本年最初のエネ研ニュース発行に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆さまには平素から、エネ研の運営や様々な事業推進に当たり、多大なるご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、運転を終了した原子力発電所の廃止措置工事計画が策定されるとともに、年末には国がもんじゅ廃止の方針を打ち出しました。一方で 11 月には地球温暖化対策の国際ルール「パリ協定」が発効し、日本は、原子力発電をどれだけ活用できるか必ずしも明確でないなかで温暖化ガスの大幅な削減に向けた取組みが求められるなど、エネルギーを巡る情勢はさらに大きく変化しようとしています。

エネ研は昨年、原子力発電所の廃止措置に対応するべく、設備の除染や構造物の切断に用いるレーザー技術の研究開発推進のほか、廃炉業務への県内企業の参入促進、原子力人材の育成など幅広い取組みを行うとともに、理化学研究所との連携強化や、将来的な水素社会実現への貢献を目指して水素関連の調査研究事業に着手しました。

本年は、これらの取組みを強力に推し進めていきます。また、3 月には福井県国際原子力人材育成センターの国際人材育成グループをアクアトムに移転し、人材育成の体制強化を図ることとしています。本年の干支「酉」の由来は、「果実が極限まで熟した状態」とされております。エネ研においても、これまでの成果が結実する年となるよう全職員一丸となって着実に取り組んでいく所存です。本年も一層のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

県内の高校生が専門的な分析機器等を用いて実験しました

平成28年12月20日と21日、県内のSSH※指定校である武生高校と若狭高校の生徒がエネ研を訪れ、専門的な分析機器等を用いた科学実験を体験しました。

体験したのは、武生高校の1年生36名（12月20日）と、若狭高校の2年生26名（12月21日）です。両校の生徒は、各自が選択したテーマについて、専門性の高い分析機器等を使った実験を行うとともに、その結果について発表と質疑応答を行いました。このうち、「環境水等に含まれる微量金属分析」のテーマでは、生徒が持参した河川水など身近な試料に含まれるナトリウム、マグネシウム、カルシウムなど微量な金属元素を誘導結合プラズマ質量分析装置（ICP-MS）等により分析したうえ、実験のプロセスとその結果について発表がありました。

生徒は慣れない実験に戸惑っている様子もありましたが、最後まで真剣に取り組んでいました。

※SSH・・・Super Science High school（文部科学省の事業）。指定校は「科学技術系人材の育成」を目的に、大学や研究機関等と連携し、学習指導要領によらない発展的な内容を学んでいます。

実 験 テ ー マ	講 師
環境水等に含まれる微量金属分析	遠藤研究員
プログラミングと近似計算の基礎	西尾研究員
電子顕微鏡によるミクロ組織の観察	安永研究員
アルデヒド脱水素酵素の遺伝子型判定	田中研究員
金属の蒸発と薄膜生成実験	石神研究員
蛍光多重染色による細胞分裂像の観察	高城研究員 畑下研究員



分析機器を使った実験



実験結果の発表

アジアからの研究者の方々にお話を伺いました

エネ研では、海外の研究機関との交流促進を目的として、研究者を県内の大学、研究機関で受け入れています。今回、ベトナムとタイから来られた4名の方に、感想と今回の成果等を伺いました。



Pham Ngoc Son (ファム・ゴック・ソン) さん (10/3～3/24)

所 属：ベトナム 原子力研究所
受入先：福井大学附属国際原子力工学研究所
テーマ：多群中性子断面積ライブラリの作成、評価、検証
「設備がすばらしく、研究を進める良い機会をいただいた。この研究で作成した炉心プログラムを自国に持ち帰り、ぜひ活用したい。」



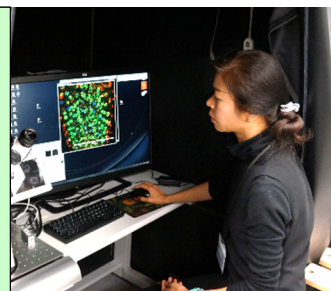
Ho Huu Thang (ホー・フー・タン) さん (11/7～3/24)

所 属：ベトナム 原子力研究所
受入先：福井大学附属国際原子力工学研究所
テーマ：小型加速器駆動システムでのパルス中性子解析
「教授や研究生はとてもフレンドリーで、彼らとなら何でもできる。日本で学んだことを自国の同僚たちと共有し、研究に活用していきたい。」



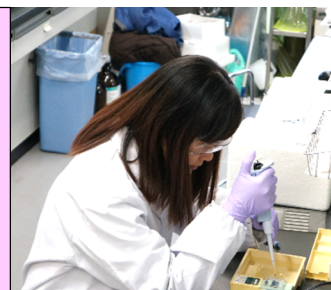
Issariya Chairam (イサリヤ・チャイラム) さん (11/2～1/19)

所 属：タイ 原子力庁
受入先：若狭湾エネルギー研究センター
テーマ：植物材料のイオンビーム感受性
「研究施設は多様な研究に対応でき、研究員の専門性も高い。日本での研究が、自国で計画されている新たな加速器施設における研究の良いスタートにつながると思う。」



Nguyen Thi Hong (グエン・ティ・ホン) さん (10/6～1/19)

所 属：ベトナム 農業遺伝学研究所
受入先：若狭湾エネルギー研究センター
テーマ：放射線育種の効率向上のための DNA マーカー開発
「道に迷ったときに助けてくれた親切さが忘れられない。日本で研究した成果やアプローチ方法を、自国の米や大豆、野菜等に適用していきたい。」



今回紹介した方々をはじめ、今年度はベトナムから4名、タイから2名の計6名を受け入れています。このうちタイのイサリヤさんは文部科学省の事業、そのほかの方は県の事業により来日されました。

エネ研は、今後ともアジア各国をはじめとした国々の研究機関との交流を通して、科学技術の国際的な発展に貢献していきます。

新メンバー紹介



福井県国際原子力人材育成センター
国際人材育成グループ主任
担当：研修の企画、実施

ほして りゅうじ
星出 隆二

(平成29年1月1日付)

